

■ 北海道情報大学学内報



(大雪山)

● 目 次 ●

1900年から2000年へ 学長 大野公男……………2	Library Information ……………5
新年を迎えて 学部長 久野光朗……………3	主要行事 ……………6
第11回蒼天祭……………4	編集後記 ……………6

発行・北海道情報大学
〒069-8585 江別市西野幌59-2 TEL011-385-4411 FAX011-384-0134



1900年から2000年へ

学 長 おおの 大 の 野 きみ 公 お 男

西暦2000年を迎えました。来年には21世紀に突入します。この区切りの時に当たって、100年前から現在までの間に日本から英国への交通の便がどう変化したかを調べてみました。

1900年は明治33年に当たります。この年9月8日、英文学者夏目金之助が、横浜を出帆する汽船に乗って、英国の留学に出発しました。彼がロンドンに到着したのは、10月28日の夜です。イタリーの「ゼノア」で下船、汽車で「パリ」に10月21日に到着、28日の10時まで滞在しロンドンにはその日の午後7時に着いているのですが、10月21日にロンドンに着いたとしても、6週間かかっているわけです。

少々脱線しますが、翌1901年1月にヴィクトリア女王が亡くなりました。金之助は親友の狩野享吉ら4名当てに長い長い手紙を書いて、その中で、「先達ての女皇の葬式は見た『ハイドパーク』と云う処で見たが(中略)大変な雑踏だ、僕は仕方がないから下宿屋の親爺の肩車で見た。西洋人の肩車はこれが始めての終りだろうと思ふ」と述べています。

私は1900年と2000年のほぼ中間の1957年1月に、羽田空港からLondon空港まで英国海外航空機で飛びました。英国はソ連に続いてジェットを飛ばしたのですが、その誇りであった「コメット2」が原因不明で次々に墜落し、一時運行を取りやめていた時期に当たります。まだ軍政下にあった沖縄、香港、バンコック、カルカッタ、スエズ紛争中でカイロの代わりにバーレーン、バグダッド、ローマ、の各空港で給油し、やっと最終目的地ロンドンに着いたのです。沖縄では誰も機外に出るのは許されず、それ以外の各地でも、ビザを持っていない私は、空港の待合室で小憩の後、また飛行機に戻るのです。冬の東京を出て、バンコックの空港では裸足の人が働いているのに、バーレーンではターバン姿のアラブ人が頭に荷

物を載せて運んでいるのに、目を見張りました。このときの所要時間は、約55時間でした。

さて現在の東京—London間の所要時間は13時間で、勿論直行です。

これと比較すると、1957年には約4倍、1900年には、約80倍の時間を要していたこととなります。

海よりは空。船よりは飛行機が速いのは今から考えれば、当たり前です。1941年、マレー沖海戦で、英国の誇る戦艦「プリンス・オブ・ウェールズ」が日本海軍の爆撃によって撃沈され、B29が往復可能な距離にあるサイパン島が1944年米軍の手中に落ちたとき、東京の焦土化が決定的になり、日本帝国の命運が定まったのでした。

この100年間の科学技術の進歩は目を見張るばかりですが、一方政治の世界では、日露戦争、第1次世界大戦、さらに第2次世界大戦と国際間の軋轢が続きました。その後に核兵器を大量に保有する米ソの2超大国間の対立が激化します。

ベルリンの壁が崩れ、さらにソ連邦自身が崩壊したのは僅か10年前のことに過ぎません。現在の世界は資本主義経済と民主主義政治の制覇するところになったように見えます。言い換えればアメリカがリードする世界です。

このような世界が何時まで続くのか？過去を振り返ると違って、将来を予測するのは不可能と言っても良い位かと思えます。何しろ10年前に現在の世界を予想した人は誰もいなかったのですから。

どんな展開になるにしても、それを知り、それに対処するのは若い方々の、逃れることの出来ない責務です。その責務を、国民の、いや人間の一人として、果たすべく、諸君が、健康に留意され、学識と能力を高めて行かれることを希望いたします。



新年を迎えて

学部長 久野光朗

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

去年の回想

昨年は4月に大野新学長を迎え、その大野学長により、5月には懸案の中国南京大学との間で国際交流協定が締結されました。早速、8月にはその国際交流の一環として本学の学生12名が玉置助教授監督のもと短期中国語講習に参加し、修学旅行を含めて24日間の日程を有意義に過ごし、無事に帰国しました。ちなみに、12月中旬、研究のために来日中の南京大学・張福炎教授を本学に迎え、「中華人民共和国におけるインターネットの現状」と題する記念講演会も実施しました。

9月早々には、本法人創基30周年・本学創立10周年の記念祝典が多数の来賓を迎えて本学で盛大に行われました。これは、本来なら一昨行われる予定であったのですが、周知のとおり、初代理事長・松尾三郎氏の逝去にともない、急拠昨年に変更になった次第でした。ここに改めて前理事長の御冥福を祈るとともに、彼の為人を知って本学の建学精神をも理解していただくため、松尾三郎編『情報社会と人づくり——電子開発学園の30年・21世紀への提言——』(学校法人電子開発学園、1999)の一読をお奨めしておきたい。まだ同書を読んでいない人には是非「読初」・「読書始」の書として読んでもらいたいものです。

去年今年貫く棒の如きもの(高浜虚子)

この有名な句は禅問答めいた一面も持っていますが、去年と今年との連続性を一本の棒という比喻で巧みに示しています。しかし、「年年歳歳花相似たり。歳歳年年人同じからず」という中国の詩にも見られるとおり、われわれは連続性とともに変革性をも見出し、そこに未来へ飛躍するための契機を探り出したいものです。

そのため、たとえ人為的であるにせよ、われわれは1年という期間を設定して計画をたて、実行をし、検討・反省をするという行為を繰り返しています。やはり新年にはなにか期待や希望を抱けるような「初夢」を見たいものです。石川啄木の歌にも「何となく、今年はいい事あるごとし。元旦の朝、晴れて風無し。」というのがあったのを思い出します。今年、情報メディア学部開設の準備に忙殺されるでしょう。また、社会的少子化傾向のなかでの入試改革にも力を尽くさねばならないでしょう。さらにまた、在学生たちに付加価値を高める教育指導をし、彼らの雇用可能性を向上することも必要でしょう。いずれも教職員・学生諸君一同の全面的協力が得られなければ実現できないことです。

クロノスとカイロス

ギリシア語では時間を表す概念に「クロノス」と「カイロス」という2つの言葉があります。前者は俗に「時間の矢」などと称される非可逆的・物理的・定量的な時間を指す言葉であるのに対して、後者は実存的・主観的・定性的な時間を指しています。

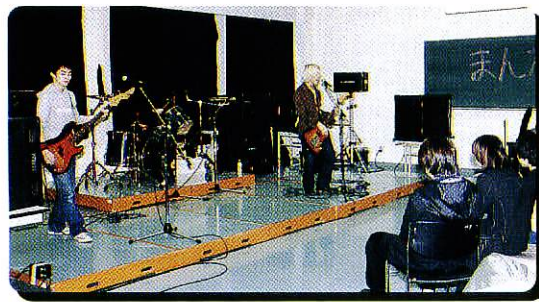
かつてベストセラーのひとつにもなったM.エンデ『モモ』のなかでは、時をつかさどるマイスター・ホラをして「光を見るために目があり、音を聞くためには耳があるとおなじく、人間には時間を感じるために心というものがある。もしもその心が時間を感じとらないようなときには、その時間はないも同じだ」(大島かおる訳)と言わせています。まさにこの「時間」こそカイロスといってよいでしょう。われわれは、クロノスという時間概念のなかで生きながら、カイロスという心眼をもって未来に対処していくことが必要なのです。

以上、「らちもなき御用始めの訓辞かな」(内藤さち子)になってしまったのではないかと危惧いたします。

第11回 蒼天祭

DATE 1999. 11.12(金)
~ 11.14(日)

Memorial PHOTO

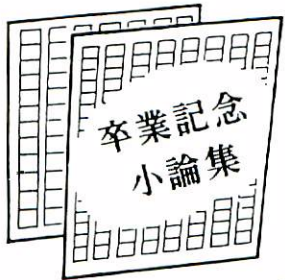


Library Information

新図書館が完成して、はやくも1年半になろうとしています。

館内の整備は続行中というところですが、表向きは落ち着きを取り戻してまいりました。旧図書室と新図書館の違いは、何ととっても広さです。ちょうど2倍になりました。座席もゆったりとし、AVブースも4台から10台に増えました。図書は約7万冊、雑誌は約300種、LDも130枚と充実してまいりました。

今回の学内報では、今読まれている雑誌と、よく利用されている最近入荷したLDの一部を写真で紹介してみました。皆さんの利用をお待ちしています。



1. 提出期限
平成12年2月3日(木)17時30分…提出締め切り 提出先→図書館
平成12年2月21日(月)……………完成・配布
学生はゼミ担当教員から、お受け取り下さい。
2. 書式
 - ①A4判1,600字程度、1~2頁
 - ②連名の場合は、学籍番号順(番号が若い順)に名前を並べる。
 - ③文字の大きさは下記のとおり統一する。
 - * 題名 → フォントサイズ「20」
 - * 副題、氏名 → フォントサイズ「16」
 - * 学籍番号、学科、ゼミ名、ほか → フォントサイズ「11」
3. ページは打たない。
4. 掲載順は特に指定がなければ、ゼミ毎で、学籍番号順に掲載します。
(論文の内容などによって、掲載順の指定があれば、提出の際に申し出てください。)

◆◆ 教職員の動向 ◆◆

☆ 大 学 ☆

◇職員人事◇

12月31日付退職

会計課 穂苺 郁保子

◆◆ 11月～12月主要行事 ◆◆

☆ 大 学 ☆

11月12日(金) 教授会

11月12日(金) 第11回蒼天祭

～14日(日)

12月10日(金) 教授会

16日(木) 南京大学張教授の特別講演

28日(火) 仕事納め

☆ 通信教育部 ☆

<スクーリング>

11月5日(金) 札幌・名古屋

～7日(日)

11月12日(金) 全国(北九州・鹿児島を除く)

～14日(日)

11月19日(金) 札幌・福岡・名古屋

～21日(日)

11月26日(金) 名古屋

～28日(日)

12月3日(金) 大阪

～5日(日)

<印刷授業>

11月1日(月) 後期レポート提出

～8日(月)

<メディア授業>

12月13日(月) 後期科目試験

～17日(金)

<入学選考>

11月19日(金) 第2回入学選考

12月17日(金) 第3回入学選考

<その他>

12月2日(木) 教育責任者会議

◆◆ 広報活動 ◆◆

* 校内ガイダンス *

11月2日 千歳高校

* 高校訪問 *

11月8日 秋田県

～12日

11月15日 岩手県

～19日

11月24日 石狩・南空知・小樽

～12月17日 旭川・室蘭

12月14日 青森県

～17日

◆◆ 主な来校者 ◆◆

11月4日(木) (株)理経 田中社長 他2名

11月9日(火) 札幌東公共職業安定所

葛西指導官

12月16日(木) 中国南京大学

張 福炎教授 他1名

編集後記

この号が皆さんのお手元に届く頃は、2000年代に突入し、慶祝やらコンピュータの誤作動問題などで、新聞・テレビを賑わしていることと思います。

人類が西暦で歴史をカウントし始めてから、2000年は長いのか短いのか、よくわかりませんが、世の中は良くも悪くも大きく変わったのだけは事実のようです。

さて、例年になく北海道も雪が少ないようで、ちょっと暖かいと道路は路面が出るほどです。地球の温暖化かなと思ったりしますが、科学者達の見解も賛否あるようですので断定はできません。

でも、新しい年を迎えるということは気持ちもフレッシュになり、来年は期待できそうという予感さえ起きてくるから不思議なものです。なにとはともあれ、来年もまたこの学内報「ななかまど」をよろしくお願ひ致します。(S)

北海道情報大学学内報

「ななかまど」第15号

発行日 平成12年1月1日

発行 北海道情報大学

編集 学内報編集委員会